

報 告

## 近畿病院図書室協議会第126回研修会

研修部

日 時：2011年12月10日(土) 11:00~17:00

場 所：関西労災病院 大会議室

テーマ：一歩進んだ情報・研究支援に向けて

プログラム：

1. 関西労災病院図書室見学(希望者のみ)
2. 文武両道：医療者にとって論文作成とは  
関西労災病院院長補佐・循環器内科部長  
上松正朗 氏
3. 病院図書室のオンラインリソース整備—医療  
従事者を支える重要な役割を担うために—  
Ovid Technologies 岡野真一郎 氏
4. 図書室業務を支えるユーティリティー学認の  
紹介を中心に—  
国立情報学研究所 学術基盤推進部  
学術コンテンツ課 係長 阿菺品治夫 氏
5. 会員交流

参加者：20名(会員外2名、講師2名)

第一席では、長年学術論文の記載の指導に携わってこられた立場から、論文の書き方を基本ルールから具体的な方法まで細かくご講演いただいた。日常業務のひとつとして論文に接しているが、論文の成り立ち、論文の種類について思いを巡らす機会は少ない。今回は Magazine と Journal の違いから始まり、文献の活用、最後は英文での論文作成のポイントなど、興味深いお話を聞くことができた。

二席目では病院図書館の課題をはじめ、冊子体、Online Journal の持つメリット・デメリットを提示していただいた。また、インターネットへの接続が可能な会場である利点を生かしオン

ラインリソースの閲覧を行った。病院図書館でも今後はIT環境を生かした図書館運営が求められる時代になると思われる。新しい情報の収集につとめ、図書館を進化させていく必要性を考えさせられた。

最後は国立情報学研究所(NII)から講師をお招きし、NACSIS-CAT/ILL、CiNiiを中心としたコンテンツサービス、学術機関リポジトリ関連事業を紹介していただいた。病院図書館では、図書館ネットワーク内での文献複写調達ができない場合、NACSIS-CAT/ILLに頼ることが多い。しかし、利用してはいるものの実際のシステムについての知識は余りない方も多かったと思われる。今回、参加資格や利用の原則などを紹介していただき、NACSIS参加への道が広がったと思う。CiNiiについても使いきれていないこともあり、まだまだ研修の場が必要かという印象である。学術機関リポジトリはまだ身近なものとは言えないが、今後はNIIの他のサービスと結びつき、病院図書館にとっても必要なものとなると思えた。内容としては盛り沢山であったため、個々の理解は十分とは言えないかもしれないが、今後の方向性など、NIIについての貴重な情報を得ることができたことは有意義であった。

研修会の最後に会員交流として、参加者全員から自己紹介、研修会の感想などを発言していただいた。地域性もあって、普段はなかなかお互いに話をするのではないが、意見交換もでき、有意義な研修会であった。

(文責：林 伴子)